デジタル版
2026年
01月122日号
Vol. 194

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都市内中京区の旧逓信病院が閉院か？

京都市内中京区の京都新町病院（旧京都逓信病院）が閉鎖の危機に瀕している。3年前に郵政省管轄の京都逓信病院から、医療法人知音会が事業譲渡を受け、京都新町病院と改名し、再スタートを切った。新町通り六角という市内では珍しい中京区にある医療機関で、病床数は90床。3年間経営の改善に努力はしたものの、経営的には赤字体質は改善できず、建物の老朽化も重なり、今回閉鎖を

決定した。3月に閉院する予定ではあるが、職員の一部から地域医療の崩壊、職員が職場を失うとの声が上がり、京都地裁に閉院停止の仮処分を申請した。

＜解説＞京都市内に限らず、全国多くの病院で経営難が続いている。国公立、民間を問わず8割近くの病院で経営が赤字と言われている。病院とはベッド数が20以上を病院と言い、多くの基準を満たさないといけない。職員数、特に看護師の人数の基準は厳しく、基準を下回ると診療報酬の削減が課される。昨今、看護師も不足気味で、多くの看護学校で定員割れを

来している。原因はコロナショック。コロナで感染のリスクがある中で過酷な勤務を強いられた。それに見合う報酬が払えない。コロナの期間は膨大な補給金、助成金で凌いだが、コロナが明けると途端に医療収入が激減した。人件費の高騰も大きい。医療収入は大部分が保険の診療報酬で規定されている。人件費、資材が高騰する中で、診療報酬はなかなか増額されない。差引赤字の経営を余儀なくされ、多くの病院が病床数を減らしてクリニック（診療所、医院）に転換している。また、大手医療機関が小規模病院を吸収し、その傘下に収めるケースも多い。京都市内では、洛和会音羽病院、武田病院系列にグループ化されるケースが目立つ。また、市内上京区、中京区、下京区では、土地が確保できないため、最新の医療機器を導入する場所が確保

できないので、病院を継続することを断念する場合も目立つ。30年以前、当時全国に病院と称する医療機関は約10,000施設あったが、現在はそれが8,000施設に減少している。国も、医療機関特に病院の病床数の減少を奨励している。今後の高齢化、人口減少に歯止めがかからない現状では、多くの医療機関を運営することは難しいので、長期療養型の慢性疾患対象の医療機関への転換を促している。地方も含め、今後人口減少に伴う医療機関の閉鎖、統廃合はさらに加速するものと思われる。中京区の旧逓信病院の今後の動向に注目が集まる。全国の同様の事例の先駆けになる可能性がある。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.